

# スキップ

No.15

2010年9月19日

J R 東海労働組合

秋の闘いシリーズ⑦

## 在来線「ATS-PT」導入で 現場は不安と悲鳴！

在来線では、新型の列車停止装置である「ATS-PT」が導入され、JR西日本の乗り入れ車両など一部運用を開始しています。

しかし、乗務員の教育が十分に行われているかという点に疑問です。そのほとんどを社員自らの時間による自主的な訓練・学習に頼っているといっても過言ではありません。

確かに、会社は訓練時間を延長したりしながら教育を行っていますが十分とはいえません。

**EDS（運転シミュレータ）を活用して  
習熟に努め不安を解消しておくように  
これが各職場で合い言葉のように繰り返されています**

今後、実際に乗務しながらの習熟運転が始まりますが、EDSを使った試験と筆記試験も実施されます。スイッチ類の名称や点検順序などマニュアルに記載の通りでないで減点するような非常に厳しい試験のようです。それに不合格となると再教育が待っています。だから会社は「しっかりと勉強なさい。EDSもやりなさい。じゃないと不合格だよ！」というのです。

**実質的な自主訓練の強制により  
会社自らが教育不足を証明！**

習熟していないから再教育。一見あたり前のように思えますが、そもそも自主的な訓練・学習に頼っておきながら再教育をちらつかせるやり方には怒りさえ感じます。

**私たち東海労は、  
社員を再教育で脅すより、最初から  
十分な教育を行うよう要求します！**

**社員の自主的な訓練に頼るな！  
十分な教育・訓練時間を確保せよ！**